

「強制」表現 最後まで腐心

「総じて」「窮余の3文字」

「気持ちの表し方」課題に

「総じて本人たちの意思、談話はこういう表現で元「管理」などに「強制」があったに反して行われた」。政府「慰安婦」の募集、移送、たことを認めた。



聞き取り終了後、「証言を真相究明の資料とする」との日本政府の「所感」を読む元慰安婦たち。7月30日、ソウルの太平洋戦争犠牲者遺族会事務所、河原理子写す

「われわれは、このような歴史の真実を、直視していきたい」。

「慰安婦」たちからは不満の声も漏れ、評価は分かれた。

「強制」という言葉ばかりをうぬぬんすることはありえない。われわれはもともと六十点主義だ」とも語った。

「強制」をどこまでどう認めるか。政府関係者は、昨夏の第一回発表以来、頭を悩ませた。各省庁から提出してもらった資料を調べても、強制連行を裏付けるものはなかったという。

取り調査では、活動家の家族として連行され工場を経営して慰安所に送られた人、「もうかる仕事があるから働かないか」とだまされた人、畑仕事の最中に日本兵に追われて山に逃げたが捕まえられた人など、経緯は様々だった。

本来なら証言を分析し、裏付けをとるためにたくさん聞き取りが必要だ。実際に聞き取りに当たった担当者たちからは、裏付けが必要とする意見が出された。しかし、官邸サイドからせかされた、とされる。聞き取りが終わった七月三十日、ソウルで田中耕太郎・内閣外務審議官審議官は、「記憶があいまいな部分もあり、いちいち詳細に

表現をなすべく筆直に記すことを望む」といって、資料がなければ強制ではない、というの狭い見方だ」という主張と重なった。

聞き取り調査最終盤の時点で、官邸サイドの強い意向によって、官邸政権内に結果を発表し謝罪することが決まっていた。

このため、「強制」をいかに表現するか、日本側は腐心した。韓国政府は、すべて強制だったと認めるよう求め続けた。

占領地だったフィリピンなどは違い、朝鮮半島では、具体的に体を拘束された連行された例は、民間団体で作った証言集などを見ても、多くはない。だまされた人が多数だ。これをどう

官談話の「総じて」の部分に「強制的」と訳し、全体的に強制だったと日本政府が認めた、として評価した。微妙な違いだが、両国の考え方の差を示している。

政府談話は「おわび」と反省の気持ちを今後とも真剣に検討すべきものと考え、今後、将来に向けての姿勢を示した。

四日、「気持ちの表し方」について新政権と打ち合わせをしたと聞かれ、河野官房長官は「どうせ、引き継ぎで言うことになるでしょう」と不快そうに答えた。では、これからどうしていくのか。「強制」を認めたものの、課題は積み残された。

資料の調査は不足 吉見義明 中央大教授



今回の政府調査では、慰安婦の徴集、移送、管理などが総じて強制的に行われたことや、強制的徴集に官憲が直接加担した場合があったことを認めた点で評価できる。

しかし、資料調査の面では期待はずれだった。官憲による強制徴集への加担を認めるのであれば、朝鮮総

り調査の結果は、プライバシーに配慮しつつ、その詳細を公表してほしい。また、オランダが実施したB級戦犯裁判の判決文では「強制」を認めており、現在法務省に保管されている裁判資料も全面公開してほしい。

今回、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷付けたとして、政府が謝罪したが、被害者からの聞き取りが、まだごく一部しかなされていないことも事実であり、今回の調査は、予備調査の域

早くケリ見え見え 『従軍慰安婦と十五年戦争』の著者でルポライターの西野留美子さんの話。早くケリをつけたい政府の意向がみえ、一回だけの聞き取り調査では不十分です。慰安婦の「強制」は、徴集、拘束のほかに、敗戦時の放置も含まれる。いまだに日本やアジア各地に放置され、民族を捨てた元慰安婦たちの存在を、政府や日本人自身がどれほど知っているのか。真相究明なしでは、何のために謝罪するのか、だれも納得しないのではない。

設置するなど、本格的な調査を新政権に期待したい。(日本現代史)

談話は格段の進歩

高崎宗司・津田塾大教授(朝鮮近代史)の話。誤解を恐れずに言えば、談話は、はつきりと評価できる。格段の進歩だ。強制力の行使にあたる表現が繰り返され、民間の研究に言及している点、反省の気持ちを表すため、有識者の意見を聞く点は、長期的な日韓関係にいいことではないか。いずれは補償問題に結びつくのだから、新政権にも、戦後補償に関する国会決議など、まず誠意を見せることを期待したい。

た。それによると、鈴木議

の利益を伴うの当事者

張り込み中に

地方発

マレー、日本人、シンガポ

信悦夫)マレー大使館に入つと、マレー半島のリゾート地沖の南シナ海九時ごろ、ヤゼル(本社・ンガポール現一・アジア社さん(至急)留若葉都賀の川が、水泳中

芳武 茂、もすけ、ナ、武蔵、教授、工芸、午後6時10、め、東京都、死去、83歳、は6日正午

